

チャンネル桜「歴史問題は日本発」より(ネットに動画あります)

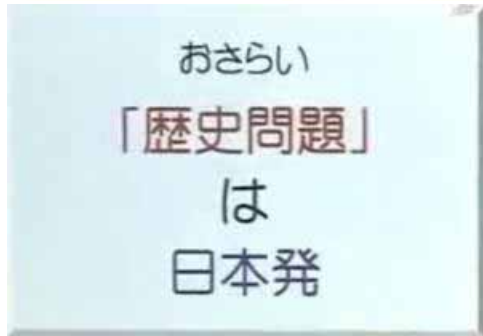
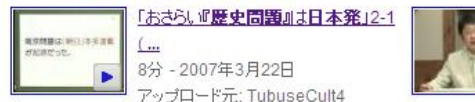
歴史問題 日本発

検索

約 963,000 件 (0.34 秒)

検索オプション

歴史問題 日本発 の動画検索結果



おもな歴史問題は以下の4つ

- ① 南京事件
- ② 教科書
- ③ 靖国神社
- ④ 慰安婦

### 南京問題のおこりは？

今につながる南京問題の発端は昭和46年8月から『朝日新聞』に連載された本多勝一記者の「中国の旅」。ここから全て始まっている。

東京裁判以降この連載が始まるまで、南京問題は日本国内でも中国でもほとんど取り上げられることはなかった。各社の中学校歴史教科書に登場するようになるのは昭和53年から(50年に1社のみ)。59年からは全社となる。ずっと南京問題が国際問題あるいは国内での歴史の重要なテーマになっていたのではないし、教科書にも昭和40年代の教科書にそういった事が大々的に書かれるという事も全くなかった。

中国の歴史教科書に「南京大虐殺」の記事が出てくるのは1979年(昭和54年)から。日本の歴史教科書より遅れて取り上げられている。南京大虐殺記念館の建設はさらに遅れて1985年(昭和60年)だった。

それまでこんな記念館もなければ中華人民共和国の教科書で大々的に日本の罪悪の代表例として反日の所在として取り上げられるような事もなかった。

日本の教科書の方が先に取り上げて、そしてその教科書に取り上げる先鞭をつけたのは朝日新聞本多勝一記者の連載であった。

**南京問題は『朝日』本多連載が起源だった。**

### 教科書が国際問題化したのはいつから？

発端は昭和57年の教科書誤報事件

文部省記者クラブ所属の日本テレビの記者が、世界史の教科書の検定で、原稿に「侵略」とあったのを「進出」に書き替えさせられたと誤った報告をした。これを各社が確認もせず一斉に報道し、中韓両国の反発を招いた。これはこの年行われた教科書検定がどのように行われたのかという事について、教科書が多数あるので、各社が分担で調べて、各社それぞれ報告をしてそれを全社の共有財産として報道するという事であった。

しかし一般の報道であればいいが、重大な記事としてあげる場合は、当然各社ごとにその報道が正確であったかという確認、裏取りをしてから報道に及ぶのが常識である。それをしないで「これは大変だ」と大きく報道したので中国・韓国が一斉に反発した。

しかも事態を致命的に悪化させたのは、当時の鈴木善幸政権の対応だった。

どういう対応？

当時の小川平二文部大臣が国会で「書替えの事実なし」と明確に答弁(同年7月)したにもかかわらず、宮澤喜一官房長官談話なるものを発表し、教科書検定において中韓両国の主張に配慮することを表明。

その談話の実効化を図るべく検定基準に「近隣諸国条項」を追加して、両国の干渉を恒常化し、制度化する受け皿を日本自ら作ってしまった。

教科書問題は日本のマスコミ各社の誤報に端を発し、鈴木政権が対応を誤ったことで長期にわたる国際問題になってしまった。

誤報から始まった。しかもこの時の日本政府の対応は中韓両国に非常に過ったメッセージを与えてしまった。

叩けば日本は譲歩する。事実がないにも関わらず譲歩して、しかも教科書を今後中韓に配慮した教科書作りをしますという制度まで作ってしまった。これは中国・韓国に日本を扱うにはどうすればいいかという事について重要な教訓を与えてしまった。

MSN産経ニュースより 産経新聞の応援をよろしく申し上げます!

初の「全閣僚、靖国参拝せず」民主党政権下で異例の8・15(2010.8.15) 65回目の「終戦の日」である15日は、菅内閣の自粛方針の下、菅直人首相も閣僚もその他の政務3役も1人も靖国神社に参拝しない、政府に記録が残る昭和60年以降初めての異例の日となった。「戦没者の鎮魂は国家の基本」(故藤波孝生元官房長官)という大原則は置き去りにされ、靖国参拝に反発する近隣諸国ばかりに迎合した結果だ。この日の靖国は、こうした民主党政権の姿勢や政策に対する懸念や憤りの声で包まれた。(阿比留瑠比)

どこの国の国益か 「菅首相と閣僚はどこの国の閣僚で、どこの国の国益を図って行動しているのか。どんなに糾弾しても糾弾し足りない」

### 首相の靖国神社参拝が国際問題化したきっかけは？

昭和60年8月15日の中曽根康弘首相(当時)の参拝に対し、『朝日』の加藤千洋特派員が中国の抗議を引き出そうとしたとしか考えにくいような記事をしきりに流し、さらに社会党の訪中団が中曽根政権の「危険性」を大いに吹聴したため、8月27日になって初めて中国政府要人による参拝への非難がなされた。

振り返ってみてこれ以前、いわゆる「A級戦犯」が昭和53年秋の大祭で合祀されてからでも、歴代首相がすでに20回参拝を繰り返し、その間、中国は明確な抗議を全くしていない。中国の抗議はいわば後出しジャンケン、何の説得力ももたない。

従って、「中国さん何を言ってるんですか? これまでいわゆるA級戦犯が合祀されてからでも歴代首相堂々とお参りしてきてお宅は何も行ってきてないじゃないですか、そんな事を言うてくるのはお門違いです」と一蹴すればよかった。

それなのに、ここでの中曽根首相は、中国の胡輝邦総書記に配慮して靖国神社参拝を取り止めてしまう。

この胡輝邦総書記がある種親日的な、日本と融和的な路線を取っていたことに対する共産党の保守派が攻撃を仕掛けていた、その権力闘争の材料として靖国神社問題が取り上げられたわけです。その胡輝邦を守るために自分は今も参拝しないという意味表明をして、何とか胡輝邦を守ろうとしたわけですが、結局胡輝邦は失脚してしまいます。

しかし日本には大きな負の遺産だけが残ったという事でありまして、吉田茂首相以降、戦後の歴代首相がほぼとぎれなく行って来た英霊への参拝がここで中断し、しかも中国側に靖国問題という外交カードを手渡してしまったのだ。

靖国問題は『朝日』と社会党の連携プレーで中国の攻撃対象として初めて浮上しました。中曽根首相の腰砕けによって長期にわたる厄介な外交カードに転化してしまいました。

## 慰安婦問題の場合は？

平成3年8月11日、『朝日』の植村隆記者が不明朗な捏造記事のスクープをおこない、謝罪路線に走った宮澤喜一内閣で慰安婦の強制連行を立証する確かな根拠が一切ないにもかかわらず、河野洋平官房長官談話(平成5年8月4日)で強制を認めたことで、慰安婦問題は国際的に固定化してしまった。

平成8年には中学校歴史教科書全社で慰安婦の記事が登場。しかし「新しい歴史教科書をつくる会」などの取り組みによって、現行の中学歴史教科書では記事に取り上げているものはゼロになった。

## 結論！ 歴史問題はやっぱり 「日本発」だった！

この問題の経緯を見ていきますと、中・韓は日本の「弱腰譲歩」というものに対する教訓を次々と学んでいきます。

それに対して日本政府は譲歩し、そして謝罪をするという事が事態をよりこじらせ、やっかいにし、長引かせ、日本の国益を失っていくという事を学習することなく、ずるずると後退を続けてきたという経過であったことがわかります。

もう踏ん張らなければならないところに来ています。

靖国問題に火を付けたのは報ステの加藤千洋だった！（動画あり）

靖国神社 加藤千洋

YouTube - 靖国問題に火を付けたのは報ステの加藤千洋だった！

朝日新聞の加藤千洋記者が昭和60年8月7日、中国『日本の愛国心を問題視』という記事をはじめとする一連の記事でもって、この年の8月15日に予定されておりました中曽根康弘首相の参拝について、繰り返して批判の記事を書いた。

(中略：前ページ参照)

靖国神社を巡る外圧の発端は実に朝日新聞の火付け記者、火付け記事、まあ加藤記者は火付け記者と言っていいんでしょうけど、そのように見てよろしいかと思えます。

櫻井よし子さん「あなたのおっしゃるアジアってどこの国のことかしら？」(動画あり、再生回数137万回突破！)

櫻井よしこ アジア

櫻井よし子「あなたのおっしゃるアジアってどこの国のことかしら...」

「アジア各国という時にですね、どの国とどの国を指しておられますか？」

「えっと特にあの中国、韓国からそういう声が出ているので.....」

「中国と韓国ですね」 「はい」

「私たちはですね、ここで言葉をキチンと定義した方がいいと思うんですね。アジア各国というと、アジア全域の事という風について考えてしまいますけれども、この問題について、特に激しい批判をしているのは、まず中国ですね、そして韓国ですね。

台湾などはもう積極的に要人がお参りに来ています。マレーシアの方だってそうですね。

ですから中国と韓国という事をまず定義したいという風に思いますし、それからこの靖国神社にA級戦犯が合祀されているからいけないというのはさっきその解説委員長がおっしゃいましたけれども、合祀は78年(昭和53年)それが発表されたのが79年ですね、その時も大平さんは行きました。次の鈴木さんも行きました。中曽根さんも82年11月からずっ~と行きました。そして85年(昭和60年)の8月15日に行かれた時に、中国が批判をしたわけですね。

私達はでは問わなければならない。79年からずっと6年あまり何故中国は何も言わなかったのか。韓国も何も言わなかったのか。

それはずっと歴史を振り返ってみると、極めて明確な中国の国益に基づいた戦術というか、政策があるんですね。

85年に日本にクレームを付けた時ですね、国際社会の状況を見れば、ちゃんと中国はそのように言ったというその理由がわかるわけですね。

つまり中国が言っているのは、靖国だけの問題ではない、中国の国益を考えた時に、今、靖国に反対しなくてもいい、もしくは反対した方がいいというのがあって、靖国は入り口なんですね。

もっと根本的な日中の問題、もしくは中国とアジアの問題というものがあるという事をここで申し上げたいと思います」

日本は『いい国だ』と言ってクビになった田母神さん。  
『日教組は日本の教育のガン』  
と言ってマスコミの大バッシングを受けた中山成彬さん。  
拉致実行犯の釈放嘆願書に署名し、国旗・国歌法に反対した菅直人が日本国総理大臣、韓国で反日デモに参加した岡崎トミ子氏が国家公安委員長？  
どうしてマスコミは、愛国者には大バッシングし、売国者の売国行為は取り上げないの？

チャンネル桜『渡部昇一の「大道無門」』

チャンネル桜 渡部昇一

どうしてこう日本のためにならないことをやりたがる政治家がいるのか。どうして日本のためにならないことを書きたがる大新聞の社説があるのか。

いろいろ考えて何十年経つんですよ。それでついに結論に達しましたことは、日本悪しかれ(あしかれ)と思う思想をずっと抱き続けている人がいるんですよ。で、日本悪しかれという思想を抱いた人たちはね、戦前の左翼なんですよ。(現政権も?)

この人たちは、スターリンのコミンテルンからお金も、支持も受けて運動して弾圧されたわけです。

あの時の左翼でも、コミンテルンのうちの指示のうちのあほらしいもの、日本の皇室を廃止しようとか、そういう命令がきた途端に佐野学から始まって、田中清玄でも、立派な共産主義者はみんな離れてるんです。その時にね、あくまでも日本悪しかれと凝り固まった人たちはうんと変わった人たちなんです。

で、そのかなり多くの新派の人たちは、はっきり言ってコリア系でした。コリア系の人にはね皇室がなくなるのは万歳ですよ。

「日本悪しかれ」なんですよ。日本にいい事は一切書かない。日本に悪いことばかり言わせようとする。

ヒトラーも全体主義だけど、ものすごく愛国主義。ムッソリーニもそうですね、スターリンもあんなこと言いながらもものすごく愛国でしょ？

ところが日本の全体主義者はね日本嫌いなんですよ。それを考えると、思想としては、当人はそうかは別として、思想としてはコリア系左翼と。だから全体主義だけなら同じ国民だから我慢するけど、そうじゃないんですよ。

「日本悪しかれ」なんですよ。